

150周年ビハインドストーリー①

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

去る11月3日、主のみ恵みにより晴天に恵まれ、1年延期した150周年記念感謝式を無事に献げることが出来ました。神様のお守りと皆様のご協力とが合わさって、久しぶりに開催された大礼拝でしたが、多くの方より恵み深い、格調ある礼拝だったという感想が寄せられました。

礼拝に先立って行った「大阪の近代教育の発祥の地」記念碑祝福式はメディアに注目され、共同通信を始めとして多くの新聞にも記事が掲載されました。遺族と相談し、プール学院の元教師のカタリナ片山敬子さんの形見として記念碑が奉献されたことにも、改めて感謝します。

ただ、コロナ防疫対策のため、間隔を空けて座席を設けたことで、聖堂の中には一部の信徒しか入れず、そのほかの信徒の方は会館の2階と3階でスクリーン越しに礼拝に参加してくださいました。これは、本当に申し訳なく、残念極まりないことでした。それでも、ご招待の方々を迎えるために、ほかに選択肢がなかったことを快くご理解頂けたと思います。

普段の礼拝と違って、その日の礼拝では平和の挨拶を交わす前に、来賓をご紹介する時間を持ちました。これは言うまでもなく、お互いに知り合ったうえで、主の平和を伝えるべきではないかという試みでした。そして、私に紹介の役割が任されてから随分悩みました。全員紹介するのか、一部だけ紹介するのか、順番はどうしたらいいのか、あまりにも長くなると礼拝のバランスが崩れるのではないか、一人当たり何秒くらいしたらいいのか、などなどでした。

まず、順番を考えました。普段ならいわゆる偉い方を先に、というルールですから、教区主教はじめ主教様方が一番になります。しかし、この日は地域の住民や近くの教会の代表者を真っ先に紹介しました。次に大阪教区の聖職者と、関係する諸組織の方々を紹介し、最後に礼拝奉仕に当たっておられた聖職者を紹介しました。これは、川口基督教会との今までの関係や距離を基準にした順番でした。当教会の出身聖職者や前任牧師、教区主教は、ある意味主体で、他の方々を招く立場であると考えたからです。そして出来るだけ、全員の名前だけでもお呼びしようと思いました。招待に応じてご足労くださった事への、最低限の礼儀だと思いました。実は数人から「長かった！」という感想を聞いていますが、いまさらではありますが、私の独断と偏見によるものだったことを白状して、皆様のおゆるしを願うばかりです。